

平成29年度

調査研究助成事業報告書

◆ 東京都立武蔵台学園 P T A

全国特別支援学校知的障害教育校 P T A 連合会

共生社会実現にむけて

～PTA理解啓発活動への取り組みを通して～

東京都立武蔵台学園PTA

共生社会実現にむけて

～PTA 理解啓発活動への取り組みを通して～

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

1. 調査研究の背景と目的
2. 都立武蔵台学園の紹介

I. あいさつまわり(執行部)・・・・・・・・4
6月7日、7月12日・14日

1. あいさつまわり企画書作成
2. あいさつまわり配布物
3. あいさつまわり実施報告
4. あいさつまわり用リーフレットについて

II. 夏まつり(行事部)・・・・・・・・・・9
7月16日

開催報告
介護等体験の美大生の感想他

III. 講演会(地域部)・・・・・・・・・・10
11月21日

明星大学教授 平井威 先生
キャリア教育について

IV. ウィンターコンサート(行事部)・・11
12月17日

1. ウィンターコンサートの物語と開催報告
2. 交流の様子
3. 学校行事から PTA 行事へ
4. 府中七中ダンス部、立川高校吹奏楽部へのアンケート

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

1. 1年間の理解啓発活動の成果
2. 今後の PTA 活動について



はじめに

1. 調査研究の背景と目的—なぜ理解啓発なのか—

「なぜ理解啓発活動なのか」について、①制度と現実の乖離、②保護者の不安、③PTA 活動の課題の3つの観点から説明します。

平成 19 年度より障害児教育の枠組みは特殊教育から特別支援教育へと大きな変換を遂げました。その理念は「一人一人の教育的ニーズへの取り組み」にあります。また、平成 24 年 4 月には児童福祉法の一部改正を受け放課後等デイサービスが創設されました。その後、平成 28 年 4 月には障害者差別解消法が施行されました。この 10 年間は教育と福祉の両分野で大きな発展を遂げ、私たち保護者にとっても希望を感じる数々の出来ごとがありました。しかし、一方では平成 28 年 7 月 26 日に起こった相模原の事件(障害者入所施設での殺傷事件)及びその事件を発端とする社会の風潮によって、私たちは厳しい現実を実感することとなりました。

学校生活の観点からは、実習先での対応や人間関係、高等部のスクールバス利用減少、一人通学への不安等、子どもたちとその家族を取り巻く環境には課題も見られます。卒業後の事に関しても、就労先での人間関係や学校との違いといった環境の変化、一人で通勤する安全面への不安等、保護者の不安と負担が解消されることはありません。

また PTA 活動においては、会員の就労率増加や価値観の多様化により、PTA 活動への理解が得られない状況もあります。

これらの観点に対応する活動として障害のある子どもたちについての「理解啓発」が必要だと考えました。「理解啓発」の視点で PTA 活動を捉えなおし、有意義な活動の継続につなげてゆきたいと考えます。この活動を通して、効果が実感でき、持続可能な PTA 活動への気づきが得られれば幸いです。



2. 都立武蔵台学園の紹介



武蔵台学園は昭和 42 年に立川養護学校として立川市羽衣町で開校しました。平成 29 年に創立 50 周年をむかえました。

平成 16 年、現在の府中市武蔵台に移転し、武蔵台養護学校としてスタートしました。平成 20 年には、法令等の改正により武蔵台特別支援学校と学校名を変更しました。

平成 24 年、学校の改編により病弱教育部門（東京都立小児総合医療センター内分教室）を併置し、名称も武蔵台学園とし現在に至ります。

武蔵台学園学区域

府中市（一部）・国立市（全域）・国分寺市（全域）・立川市（一部除く）



児童生徒数 小学部:101 名、中学部 77 名、高等部 130 名 合計 308 名

PTA 会員:知的障害教育部門(小・中・高)289 世帯(平成 29 年 5 月 1 日現在)

PTA 実行委員会構成:執行部・地域部・行事部・進路対策部・広報部・文化厚生部

PTA の年間活動(平成 29 年度)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
実行委員会	5/23	6/27			9/12	10/31	11/21		1/16	2/27
執行部	あいさつまわり					都知P連要望書 提出 12月中旬 新リーフレット作成他		創立50周年記念 式典12/21		
行事部			夏まつり企画及び開催 12/17				ウインターコンサート企画及び 開催 12/17			
地域部					各市要望書懇談会		講演会11/17	各市要望書アンケート		
広報部	びわのみ141号企画及び制作							びわのみ142号企画及び制作		
進路対策部		施設見学(1)			施設見学(2)			進路勉強会1/30		
文化厚生部					給食試食会10/12			交流会(見学)1/25		
					リサイクル事業回収及び引き渡し12/2					

理解啓発活動

1. あいさつまわり
2. 夏まつり
3. ウインターコンサート
4. 地域部講演会

12月2日小中文化祭 1月20日けやき祭

I. あいさつまわり 担当:執行部

1. あいさつまわり企画書作成

あいさつまわり訪問先:交通機関及び交番、店舗など 26 か所

1. 趣旨：武蔵台学園児童生徒への理解促進

- 児童生徒への理解促進
 - 障害のある児童生徒への対応（ヘルプマークの普及促進）
 - 緊急時の対応
- 一人通学への不安軽減
 - 交通機関乗車方法（バス、電車等のマナー徹底）
 - 交通機関でのトラブル対応への理解

↓ 情報収集 ↓

アンケートによる要望書作成

2. あいさつ廻りのイメージ

「交通機関及び地域を中心に、児童生徒について理解促進を図る」

- 交通機関**
 - バスや電車での乗車マナー
 - 一人通学及び補習への理解促進
- 地域**
 - 武蔵台地域における児童生徒への理解（店舗、交番等）
 - 緊急時への対応
- PTA**
 - 一人通学への不安軽減
 - 安全への取り組み

3. 挨拶回り概要

【訪問先】

- 京王バス（中央営業所）
- JR西国分寺駅・国立駅・立川駅・国分寺駅（鉄道警察含む）
- 京王電鉄府中駅
- 駅前交番（立川駅・国立駅・国分寺駅・西国分寺駅他）
- 武蔵台地域
- スーパー、コンビニ等店舗

【説明資料】

- アンケート結果による要望書
- リーフレット（ヘルプマーク説明）
- 高等部制作カレンダー
- 広報誌ひわのみ・ボールペン・クリアファイル
- 標準服写真

4. 挨拶回りの方法

- アンケート回収及び集計・・・5月
- 井上副校長と執行部によるあいさつ廻り・・・6月
 - 京王バス中央営業所
 - JR西国分寺駅
- 執行部によるあいさつ廻り・・・6月
 - 上記以外の場所
- その他（要検討）・・・6, 7月
 - 実行委員（地域部）によるあいさつ廻り
 - 会員によるあいさつ廻り
- 報告書・・・7月

2. あいさつまわり配布物

PTA 会員へのアンケートにより各交通機関などへの要望書を作成（京王バスへの要望書）

平成 29 年 6 月 7 日

京王バス中央株式会社
府中営業所 所長 様

都立武蔵台学園 PTA
会長 伊東 牧志

路線バス利用時における安全安心に関するお願い

平素は武蔵台学園の児童生徒及び保護者へのご理解及びご支援を賜り、誠にありがとうございます。

武蔵台学園は知的障がいのある児童生徒が通う特別支援学校であり、児童生徒の「自立と社会参加」を目指し、社会的自立に必要な基礎学習及び就業能力の育成に取り組んでおります。また、学校と保護者（PTA）が連携し社会共生の心を育てるため、地域の皆さまとの交流を目的とした夏まつりなどの PTA 活動も行っています。

平成 29 年度も小・中・高各等部にて新入生 81 名（児童生徒数 303 名）をお迎えし、新年度がスタート致しました。つきましては、日頃のご支援への感謝を申し上げますとともに、校内にて意見をまとめましたので、お知らせさせていただきます。

ご多忙とは存じますが、何卒ご検討下さいますようお願い申し上げます。

【お願い事項 平成 29 年度】

1. バスの乗降時の対応

【困っていること】

- 降りる時に障害者手帳（以下、手帳）とバスモ（または Suica）を出す順番がわからなくなっています。
- 手帳とバスモ（または Suica）をひとつにまとめていたため、手帳を出すと同時にバスモがカードリーダーにタッチされており、運転手さんが困って手帳を現金で渡してくれた。本人は何のことも理解できず、受け取りました。「……ですか」ときかれても、オウム返しをしてしまいます。
- 会話ができないため、「手帳です」お願ひしますと言えず、さらに手帳を見せるのにとまどって時間がかかってしまいます。
- 朝の混雑時には、武蔵台学園のバス停で降りるのに、時間がかかってしまい、遅刻と大変です。

【お願いしたいこと】

- 手帳を出したときに、カードリーダーに読み取れないやうな位置があれば、教えて下さい。
- 混雑時には、降りる際に「ゆっくり降りてください」「降りる人のためにご協力下さい」などのお声掛けをお願いします。
- 話しかけるときは、ゆっくり、わかりやすい簡単な言葉でお願いします。
- バスの中で困ったこと、気になったことがありましたら、武蔵台学園(042-576-7491)までご連絡下さい。どのようなことでも結構です。

2. その他

【嬉しかったこと】

- バス降車時に子供が降り時間がかかっていると、運転手さんには「急がなくても大丈夫ですよ」と声をかけていただき、乗客の方は荷物下ろしのお手伝い下さり、とても嬉しかったです。
- バスが混雑している時には、運転手さんが他の乗客の方へ「降りるためのスペースのご協力」と声をかけ下さり、とても助かります。

【お願いしたいこと】

- ヘルプマークと一緒に、情報カードを 持 っ て いる こと を 知 っ て ほしい。
- また、情報カードを見て欲しい。

都立武蔵台学園
連絡先:042-576-7491

<参考資料> 武蔵台学園の児童生徒が身につけています。

愛の手帳

愛の手帳（東京都療育手帳）は、東京都愛の手帳交付要綱に基づき、知的障害者（児）の保護及び自立更生の援助を図るとともに、**知的障害者（児）**に対する社会の理解と協力を促すために交付し、知的障害者の福祉の増進に資することを目的としており、障害の程度によって、1度から4度に区分されます。

東京都福祉保健局HPより

ヘルプマーク&ヘルプカード

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。

緊急連絡先や必要な支援内容などが記載された「ヘルプカード」は、障害のある方などが災害時や日常生活の中で困ったときに、周囲に自己の障害への理解や支援を求めるためのものです。

東京都福祉保健局HPより

ヘルプカード

あなたも支援が必要です。

下記に連絡してください
私の名前
(ア) 連絡先の電話番号
連絡先住所(市区町村・番地)
等んでほしい人の名前
(イ) 連絡先の電話番号
連絡先住所(市区町村・番地)
等んでほしい人の名前

<アンケートについて>

交通機関乗車時

- 困っていること
- お願いしたいこと

その他

- 嬉しかったこと
- お願いしたい事

上記の意見を交通機関ごと、交番、店舗別に要望書を作成

- 京王バス府中営業所・京王電鉄府中駅・JR 国分寺駅・西国分寺駅・国立駅・立川駅・西武鉄道国分寺駅
- 駅前交番（立川・国立・国分寺・西国分寺）
- 地域店舗など

あいさつまわり配布資料① リーフレット 5年間同じ資料を使用

東京都立武蔵台学園学区の
公共交通機関、警察、近隣の皆さまへ
子どもたちの見守りを
お願いします。

本校には、知的障害や発達障害のある児童・生徒が通っています。将来、自立した生活ができるように、公共交通機関を利用して、1人で通学できるように練習している生徒がたくさんいます。

知的障害や発達障害のある人は、トラブルに巻き込まれたとき、助けを求めたり、警察にあって、それを訴えることができないことが多くあります。

子どもたちが安全に通学できるよう、学校や保護者が協力して、本人をサポートしています。

公共交通機関、警察、また近隣の皆さま、子どもたちの見守りをよろしくお願いいたします。

●もし、パニックになったら…
知的障害や自閉症の人は、見通しがつかないことに過度に不安をおぼえ、心が震動して、パニックになり、大声を出したり、飛び回ったりすることがあります。誰かに声をかけようとする、歩道に落ちようとするなどがあります。ゆっくり声をかけ、遠くを見守ってください。

●言葉のやり取りが難しい場合
ゆっくり、短い文脈で質問してください。

●知の障や自閉症の子が行動不審になることは稀ではありません。危険に対する認識が薄く、道路や線路や河川など危険なことに近づいたり、電線に乗って、遠くまで行ってしまったりすることがあります。一度、警察署のあるふもとには侵入できません。駅の警備員やパトロールの巡りをプロパブテック、身体を前後や左右に揺らすなどの動作に特徴のある人もいます。

●名前や連絡先を聞いたものを持っていることが多く、本人にやさしく話しかけ、警察や消防を呼び出して、連絡をお願いします。

●連絡先がわからない場合は、行為不審の対応がされている可能性もあるので、駅員や警察に連絡をお願いします。

●もし、対応に迷ったら…、学校に連絡をお願いします。

東京都立武蔵台学園 ☎. 042(576)7491

本校の保護者の体験談です。

障がいというにはあまりにも条件が揃っていた。中2の秋、学校帰りにフライングになってJRのGPS警備員の乗車には必須アイテムだった。この日に帰って帰らな。たまたまは乗車が家で乗るというところがあったけど、乗車には付いていた。…なのに帰って帰らな。たまたまは乗車が家で乗るというところがあったけど、乗車には付いていた。…なのに帰って帰らな。たまたまは乗車が家で乗るというところがあったけど、乗車には付いていた。…

駅前で待つ時間が長くなり、思わず涙がパニックとはなっていました。目を覚まして「ごめんない！ まっすぐね！（帰る）」と通称する息子に話しかけおまわりさんにも言葉。（普通ならおまわりさんにも話しかけられるのですが、こんな様子を見たら何かないかな？）帰り道、「おまわりさんお話を聞いています。コンビニに寄りませうね。」と話かけて下さり、帰るまでずっと私の心に寄り添ってくれた。この時の事は今も私の心に響き続けている。その後も一度学校の帰りに居ないなり由緒不明に保護された息子は、またも優しいおまわりさんのお世話になることには、これでは、（悪いこととするとおまわりさんに迷惑する）の動きはほげな。う。

ヘルプマークをご存知ですか？

本校の支援もこのマークのタグをカバンにつけて通学や外出をするよう取り組んでいます。児童・生徒が困っている様子を見かけたら、まずは見守りをお願いします。

あいさつまわり資料② 標準服イメージ

武蔵台学園高等部男女生徒標準服

男子上下標準服 女子上下標準服

ネクタイは男女ともワインレッドカラー

標準服の色は男女とも濃紺色

ボタンデザインは男女とも同じ

武蔵台学園高等部標準服の生徒を見かけましたら、暖かいご対応とご配慮をお願い申し上げます。

武蔵台学園中等部男女生徒標準服

男子上下標準服 女子標準服

男女ボタンデザイン

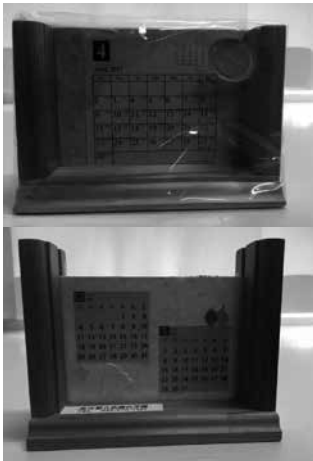
男子ズボンチェック柄

女子スカートチェック柄

武蔵台学園中等部標準服の生徒を見かけましたら、暖かいご対応とご配慮をお願い申し上げます。

あいさつまわり配布物③ 高等部児童生徒製品【高等部木工班&リサイクル班制作カレンダー】(左)

あいさつまわり配布物④ 広報誌びわのみ・ウインターコンサートクリアファイル・校名入りボールペン(右)



高等部制作のカレンダーは、交番などで目立つ所に飾って頂いています。
木枠の部分に武蔵台学園の電話番号シールを張り付けています。

3. あいさつまわり実施報告

今年度のあいさつまわりは、アンケートにより頂いた意見をもとに各交通機関、交番、店舗ごとに手紙(要望書)を作成し、こちらよりお話をさせて頂きました。困っていること、お願いしたいことの他に、対応して頂いてうれしかったことなどもお伝えしました。バスの運転手さんや駅員さんなどのご対応で、とても親切にして頂いたことがあります。お礼状が出せずそのままになっています。本当は直接感謝の気持ちをお伝えすべきなのですが、代表してPTA 執行部が皆さんの気持ちを伝えました。

武蔵台学園バス停のある京王バスは、武蔵台学園児童生徒の利用が一番多い交通機関です。療育手帳とICカードの使用についてのご理解を頂きました。「(乗降時に時間がかかったりしても)どうぞ気にしないで下さい」と言って頂き、うれしく思いました。

あいさつまわりは3回に分けて行いました。1回目は交通機関と交番を中心に行い、井上一仁副校長先生も同行して頂きました。また、執行部全員が参加する必要はなく、都合がつく時に参加できるようにしました。



立川駅北口交番



京王バス府中営業所

訪問先 26 か所でのお話、課題と対応などをまとめて「あいさつまわり実施報告書」を作成し、校内に配布しました。

H29年度挨拶まわり お願い事項

1. バスの乗降時の対応

【困っていること】

- 降りる時に障害者手帳(以下、手帳)とパスモ(またはSuica)を出す順番がわからなくなってしまう。
- 手帳とパスモ(またはSuica)をひとつにまとめているため、手帳を出すと同時にパスモがカードリーダーにタッチされてしまい運転手さんが困って半額を現金で渡してくれました。本人は何のことも理解できず、受け取りました。
- 「・・・ですか」ときかれてもオウム返しをしてしまいます。
- 会話ができないため、「手帳です」「お願いします」と言えず、さらに手帳を見せるのにとまって時間がかかってしまいます。
- 朝の混雑時には、武蔵台学園のバス停で降りるのに、時間がかかってしまい、意外と大変です。

【お願いしたいこと】

- 手帳を出したときに、カードリーダーに読みとられないやり方があれば、教えて下さい。
- 混雑時などは、降りる際に「ゆっくり降りてください」「降りる人のためにご協力下さい」などの声掛けをお願いします。
- 話しかけるときは、ゆっくり、わかりやすい簡単な言葉をお願いします。
- バスの中で困ったこと、気になったことがありましたら、武蔵台学園(042-576-7491)までご連絡下さい。どのようなことでも結構です。

訪問先でのお話

＜京王バス中央営業所＞

- 年6回安全教育を社内で行っています。ヘルプマークの認知などは社内教育を通じて行っています。
- 300名乗務員がおり、交通サポートマネージャという外部講習も受けています。
- 武蔵台学園の生徒さんについては、手帳とICカードの出し方等で迷うこともあると思いますが、どうぞ気にしないで下さい。
- 手帳とICカードを別々にした方がよいか、という質問に対しては、保護者の気持ちを考えて手帳とICカードの一体化が便利だと思います。
- 運転手さんへの声かけが難しい方については、「お願いします」などのカードを見せてくださってもいいです。
- 今後も定期的に意見交換等をしていきましょう、と言って頂きました。

＜その他＞

- 立川市が武蔵台学園学区であることを知りませんでした。(立川北口交番)
- 迷子の方への対応には、ヘルプカードを持っていて便利です。(立川南口番)
- てんかんなどの持病を持っている学生さんなどは、ヘルプカードに持病や薬などの記載がしてあると、救急隊との連携がスムーズになります。ヘルプカードの認知と活用をしてゆきたいと思います。(西武練国分駅)

2. その他

【嬉しかったこと】

バス降車時に子供が嫌がり時間がかかっていると、運転手さんには「急がなくても大丈夫ですよ」と声をかけいただき、乗客の方は荷物下ろしのお手伝い下さり、とても嬉しかったです。

バスが遅れている時には、運転手さんが他の乗客の方へ「降りるためのスペースのご協力」と声をかけて下さり、とても助かります。

訪問先全て共通【お願いしたいこと】

- ヘルプマークと一緒に、情報カード(ヘルプカード)を持っておきたい。
- また、情報カード(ヘルプカード)を見て下さい。

課題と対応

京王バス以外のバス会社における、生徒への理解促進に不安がある。
立川における武蔵台学園の認知度が低い。
ヘルプマークとヘルプカードの校内における理解にばらつきがある。

京王バスとの意見交換は今後も行う。(2-3学期)
西国分寺周辺店舗(マイン、コンビニ等)へのあいさつまわりを行う。(7/12)
立川バス、西武バス営業所及びモレール駅へあいさつまわりを行う。(7/14)
ヘルプマークとヘルプカード併用を推進する。(2学期)
→ ヘルプマーク及びヘルプカードを配布する。
武蔵台学園児童生徒の理解啓発リーフレットの作成(2学期)

4. あいさつまわり用リーフレットについて

リーフレットについては、「文字情報が多く、メッセージが伝わりにくい」「詳細までは読んで頂いてないのではないかと」の課題がありました。今年度は交通機関ごとに要望をコンパクトにまとめ、新リーフレットを作成しました。

再掲

東京都立武蔵台学園学区の
公共交通機関、警察、近隣の皆さまへ
子どもたちの見守りを
お願いします。

本区には、知的障害や発達障害のある児童・生徒が通っています。得意、自立した生活ができるように、公共交通機関を利用して、1人で通学できるように練習している生徒がたくさんいます。

知的障害や発達障害のある方は、トラブルに巻き込まれたとき、助けを求めたり、被害にあっても、それを見逃すことができないことが多くあります。

子どもたちが安全に通学できるように、学校や保護者が協力して、本人をサポートしています。

公共交通機関、警察、また近隣の皆さま、子どもたちの見守りをお願いします。

もし、パニックになっている一時的障害や自覚のない人は、見逃しがつかないことに過度に不安をおぼえ、心が震えたり、パニックになり、大声を出したり、飛び回ったりすることがあります。強引に押さずつよつよとすると、事故に巻き込まれることがあります。

ゆっくり優しく話しかけ、遠くを見守ってください。

もしもパニックになっているのを止めたい一時的障害や自覚のない人が行方不明になることはありません。危険に対する認識が薄く、道路や線路や河川など危険なところに近づいたり、電車に乗って、進んで行ってしまったりすることがあります。

一見、誰かがいるように見えても、駅の本番や駅でICMの呼び込みをブツブツ言う、身体を前後や左右に揺らすなど動作に特徴のある人もいます。

名前や連絡先を書いたものを持っていることが多いので、本人にやさしく話しかけ、荷物や現金を確認して、連絡をお願いします。

連絡先がわからない場合は、行方不明の被害がなされる可能性もあるため、駅員や警察に連絡をお願いします。

もしも、対応に迷ったら、学校に連絡をお願いします。

東京都立武蔵台学園 ☎ 042(576)7491

行方不明になった時の体験談とヘルプマークの紹介

本区の保護者の体験談です。

我が家には1人の子供がいます。知的障害があり、通学には保護者が付き添っています。昨日、学校帰りに電車に乗ったとき、ICMの呼び込みを聞き取れず、乗車してしまいました。ICMの呼び込みを聞き取れず、乗車してしまいました。ICMの呼び込みを聞き取れず、乗車してしまいました。

駅員さんのおかげで、安全に帰宅することができました。ICMの呼び込みを聞き取れず、乗車してしまいました。

ヘルプマークをご存知ですか？

本区の生徒もこのマークのグッズを身に付けて通学や外出をするよう取り組んでいます。児童・生徒が困っている様子を見かけたら、まずは見守りをお願いします。

行方不明時の保護者体験談とヘルプマークの紹介

リーフレットの課題

- 文字情報が多く、具体的なイメージが伝わりにくい。
- 一人通学練習での課題や支援の仕方がわからない。

(1)リーフレットの目的

お願いしたい事などの情報提供を通して、児童児童生徒への関心を高め、適切な理解を図ります。訪問先で有効な意見交換を行う手段として使用します。

(2)リーフレットのメッセージ

①「こんなことが苦手です」バス、お店、人と接する時、電車などの人ゴミなどの場合を想定しました。当初は「困っています」というタイトルでしたが、困っているのが本人なのか、交通機関などで接する人なのか、誤解を生むと考えました。

②緊急時にヘルプカードを見ていただくように付け加えました。

③全体のストーリーは以下の通りです。

こんなことが苦手です→困っていたら正面から声をかけて下さい→いろんなことが出来るように練習しています(頑張っています)→対応に困ったら学校にご相談ください

知的障害や発達障害の人はこんなことが苦手です。

周りの状況を理解するのが苦手です。

電車や人混みで…

- ・ひとりごとや大声が出てしまいます。

危険よく行動するのが苦手です。

バスで…

- ・票の手帳がなかなか出せません。
- ・票の手帳を見せる前に交通 IC カードをタッチしてしまいます。

会話が苦手です。

人と接する前に…

- ・オウム返しをします。
- ・返事ができません。
- ・視線を合わせられません。
- ・人との適正な距離感がわかりません。
- ・パニックになることがあります。
- ・知らない人に話しかけてしまうことがあります。

計算が苦手です。

お店で…

- ・おつりをもらうのを忘れます。

困っていたら、正面から声をかけてください。

どうしましたか？

お願いしたいこと。

- ・ゆっくりと話してください。
- ・言葉が理解しにくいこともあるので、くり返し説明してください。
- ・絵や図などで具体的に説明してください。
- ・パニックの時は、押さえ込もうとしないで、やさしく声をかけてください。

いろんなことが自分ひとりでできるようになるための練習中です。見守ってください。

交通機関などへの要望書に記載したお願いしたいことは、この部分に入れました。

PTA の想いは、この部分に込めました。子どもたちは、毎日頑張っています！

緊急のため、ヘルプカードのお願いも追加しました。

連絡をお願いします。

持ち物に連絡先が付いています。

緊急時は、かばんの中のヘルプカードを見てください。

(発作やてんかんのある人もいます)

愛の手帳
愛の手帳 (東京都)
障害者手帳 (東京都)

ヘルプマーク (東京都)

ヘルプカード (府中市、国分寺市、国立市、立川市)

連絡先がわからない時は 警察 110 番へ

対応に困ったら学校にご相談ください

東京都立武蔵台学園
TEL.042-576-7491

全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会 平成 29 年度 調査研究助成事業

知的障害や発達障害のある生徒がバスや電車で通学しています。

子どもたちの見守りのお願い

東京都立武蔵台学園 PTA

イラストやデザインは印刷会社さんをお願いしました。学園のシンボルカラーのモスグリーンを取り入れ、高等部の児童生徒を主人公にしています。周囲の人と視線が合わない、周囲の人の笑顔など、イラストでも工夫して頂きました。

II. 夏まつり 平成 29 年 7 月 15 日(土)担当:行事部

今年度は 7 月 15 日(土)に、毎年恒例の「第 43 回夏まつり」が行われました。

7 団体の出店参加、約 330 名の方にご来場いただき、合唱部による発表、先生方の太鼓の演奏、地域の皆様による武蔵台囃子、今回初めてとなるプロの方によるマジックショー、模擬店販売、遊びのコーナーと予定通り行うことができ、ご来場の皆様に楽しんでいただけました。

また、似顔絵コーナーでは、介護等体験の多摩美術大学の学生さんたちが、受付で配布したうちわに似顔絵を描いて下さいました。

多摩美術大学学生さんの感想

- ・初めての似顔絵でとても不安でしたが、来場者の方々が凄く喜んでくれて嬉しかったです。会話をしながら描き進めたので、コミュニケーションもとれて良かったです。事前準備をしていたので、どのイラストを描いてほしいかなどを聞いて指をさしてもらったりして、子供達やみなさんと一緒に作り上げていったうちわをあおいでくれるのを見て、この体験を通して改めて、『人に喜んでもらえる幸せ』をかみしめました。
- ・最初はなかなかコミュニケーションがとれなくても、似顔絵を描いている間に次第にコミュニケーションがとれることができ、皆さん笑顔を見せてくれて、楽しかった。

来場者アンケートから

- ・毎年楽しみにしていますので、今後も頑張ってください。
- ・子どももとても楽しみにしていて、夏が来た！！という感じでうれしい行事です。卒業生も学校に行けるいい行事で、ありがとうございます。
- ・似顔絵を描いて頂いて、すごく喜んでいました。
- ・夏まつりの形も年々変化していることを感じます。地域とのつながりや卒業生が集える場として、今後も大切に育てていって欲しいと願います。

PTA会員の皆さま

平成 29 年 7 月 20 日

東京都立武蔵台学園
PTA会長 伊東 牧恵
行事部

第 43 回 夏まつり 活動報告

7 月 16 日(土)に、毎年恒例の「夏まつり」が行われました。

今年で 43 回目をむかえましたが、東日本大震災以降の午前中開催も定着し、連日の猛暑にも拘らず 7 団体の出店参加、約 330 名の方に来場いただき、賑やかなおまつりとなりました。

当日、あまりの暑さに体調管理など心配でしたが、ステージ発表、模擬店販売、遊びのコーナーと予定通り行うことができ、ご来場いただいた皆さんに楽しんでいただけたと思います。

バスロータリーに設けられたステージでは、まず、合唱部による発表があり、素晴らしい歌声に皆さん聞き入っていました。次に、先生方の息の合った太鼓の演奏や地域の皆さんによる武蔵台囃子も加わると、更に楽しい雰囲気となりました。また、今年はマジックショーがわり、目の前の不思議に釘づけになり、大いに盛り上がりしました。

遊びのコーナーでは、高等部の生徒さんが接客し、先生方も大勢お手伝いいただき、夢中になってゲームを楽しむお子様達の姿が印象的でした。

また、今年は多目的ホールでの出店となった模擬店も、とても賑やかで温かい交流の場となりました。

恒例となりつつありますが、受付で、ご来場のお子さんを中心にうちわを配布し、似顔絵コーナーとスタンプラリーを実施しました。

似顔絵コーナーでは、介護等体験の多摩美術大学の学生さんたちがうちわに似顔絵を描いてくださり、描いてもらった似顔絵を、お友だちと見せ合い、楽しんでいる様子もみられました。また、あまりの上手さに大変感心いたしました。

ただ、うちわの配布やスタンプラリーのポイントの案内が行き届かず、ご不便をおかけしましたことを、この場を借りてお詫言申し上げます。

夏まつり終了後には、「ホームカミングデー」として、こぶしの会館や同期会が開かれ、卒業生やその保護者の方々が懐かしい母校を訪れ、楽しいひとときを過ごしていらっしゃいました。

最後になりますが、出店参加団体の皆さま、朝早くから協力してくださった介護等体験の学生さんたち、お手伝いくださった保護者の方々、そして、準備から後片付けまでご尽力いただいた多くの先生方、皆さまのお力添えに、心から感謝申し上げます。

また、ご参加いただいた多くの児童・生徒、及び、ご家族の皆さま、ありがとうございました。

武蔵台学園 夏まつり7/15

平成29年度活動報告書

受付 武蔵台太鼓 先生!! 出展事業所さん

合唱部発表 武蔵台囃子/獅子舞 スーパーボールすくい

似顔絵コーナー 多摩美大生の皆さん ハートボブリ マジックショー

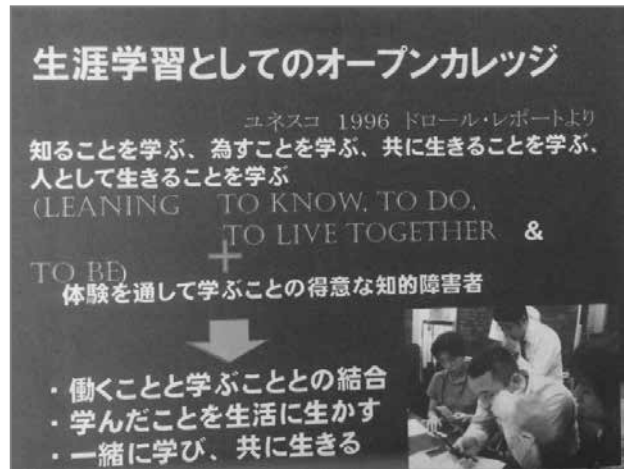
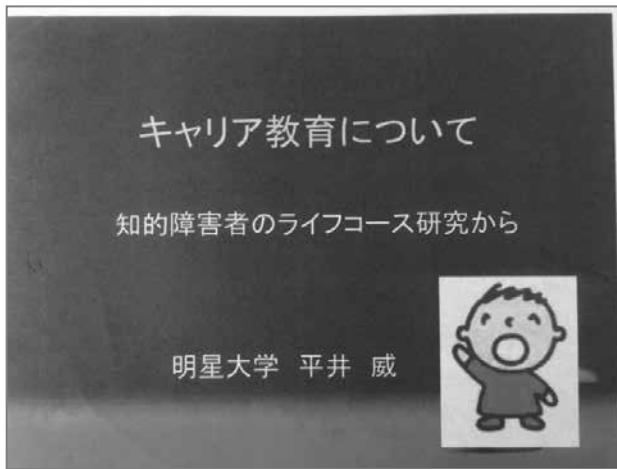
III. PTA 地域部講演会 平成 29 年 11 月 17 日(金) 担当:行事部
 キャリア教育について～知的障害者のライフコース研究から～
 明星大学教育学部 教授 平井 威 先生



平井威先生

講師の平井先生は、特別支援学校教員として 36 年間勤められました。立川養護学校での PTA 活動など、様々なご体験をお話し頂きました。「ともに生きよう、この町で」を合言葉に PTA、卒業生親の会、各市の手をつなぐ育成会等で構成する「障害者地域交流協議会」の事務局長、広報担当等としてかわり、多摩地区に通勤寮や生活寮を作る運動や「こどもまつり」の運営を通じて、障害のある子どもたちと大人たちが地域で暮らし続けていける基盤づくりをされました。また、学校五日制の導入に当たっては、休みとなる土曜日の地域活動を作り出し、学校教育だけでなく地域の社会教育で子どもたちの学びと生活を保障できる体制作りをすすめられました。平井先生のお話を通して、「社会参加」「自立促進」は親の運動からはじまったこと、わが子を想う親の行動が世の中を変える、ことを実感しました。

講演では知的障害者と市民の生涯学習『オープンカレッジ東京(OCT)』の活動をご紹介します。20 年以上開講している『オープンカレッジ東京』は成人知的障害者と市民が「いっしょに学び、ともに生きる」ことをめざした生涯学習講座です。最初は不安と戸惑いから出発した学生さんたちが、成人の知的障害者と「いっしょに学ぶ」ことで、障害者への見方を変える人が沢山いるそうです。



今後の障害者施策

従来の学校教育政策を中心とする障害者政策に留まらず、生涯学習を通じた生き甲斐づくり、地域との繋がりがづくりを推進し、「障害者の自己実現を旨とする生涯学習政策」を総合的に展開。

学校卒業まで	学校卒業後 生涯にわたって			仕事
特別支援学校等 教科等の学習 キャリア教育 進路指導 就労支援	高等教育への進学 企業等への就職 就労移行支援 就労継続支援A型	就労継続支援B型		
部活動 友人等との交流	生涯学習を通じた生き甲斐づくり、地域との繋がりがづくりを推進			生涯学習
自立活動 生活指導	生涯学習活動 スポーツ活動 文化活動への参加	生涯学習活動 スポーツ活動 文化活動への参加	生涯学習活動 スポーツ活動 文化活動への参加	生活
	清純な生活 必要に応じて 障害福祉サービス等 を利用	通所施設等 の利用	匿名介護や 入所施設等 の利用	

自立の程度 高い ← 自立の程度によって活動の範囲が狭くなる。 → 低い



IV. ウィンターコンサート 2017 平成 29 年 12 月 17 日(日) 担当:行事部

1. ウィンターコンサートの物語と開催報告

約 40 年の実績を重ねるウィンターコンサートには、あるご姉弟の絆の物語があります。当時お姉さんが立川高校の生徒さんで、弟さんが本校の前身である立川養護学校の生徒でした。「障害のある子供たちに素敵な音楽を届けたい」「手の届く距離で演奏し、みんなと触れあえるように」というお姉さんの想いを立川高校吹奏楽部の皆さんが分かち合い、毎年繋いできてくれました。一人の立川高校の生徒さんの呼びかけから、今日まで音楽を通して誰もが共に楽しめる場をつないできました。弟さんにはお姉さんがいて、ご両親、友人、先生方がいました。お姉さんのお友達や立川高校吹奏楽部の皆さんと武蔵台学園の児童生徒の皆さんとの交流は、一步一步確かなつながりを広げてきました。近年は本校合唱部と立川高校吹奏楽部との交流を中心とした「ウィンターコンサート」として開催してまいりました。

今年は、府中第七中学校ダンス部の皆さんが初参加し、中学生とは思えない高レベルのダンスを披露してくれました。次に本校 PTA 会員であるシンガーソングライター MIMO さんの世界ダウン症の日キャンペーンソング『ギフト』、続けて『どうかこの子を』『きみはキラキラダイヤモンド』を歌ってくださいました。MIMO さんの心染み入る歌声と暖かいメッセージに、会場全体が引き込まれていきました。

そして立川高校吹奏楽部の発表。第 1 部は、『Burn』『リトルマーメイドメドレー』『魔女の宅急便メドレー』となじみのある曲の迫力ある素晴らしい演奏に圧倒されました。第 2 部は劇による進行で『Happy!Happy!!Happy!!!Xmas』、軽快なリズムの曲にダンスも交え、さらに立川高校吹奏楽部の皆さんの手作りのプレゼントも配られ、子どもたちは大喜びでした。合唱部とコラボレーションした『あわてんぼうのサンタクロース』では、会場の子どもたちも鈴やタンバリンをならして、大変盛り上がりました。アンコール曲『サンタが町にやってくる』では、もっと演奏を聴いていたいと名残惜しく感じました。



府中第七中学校ダンス部(上)と本校保護者 MIMO さん(下)

立川高校吹奏楽部(上・下)



武蔵台学園合唱部

2. 交流の様子

午前中のリハーサル終了後、昼食交流をしています。今年は武蔵台学園創立 50 周年にあたり、記念式典(12/21)で来賓の方々にお渡しする記念品(高等部 2, 3 年生制作)が展示されました。



創立 50 周年記念式典来賓用記念品の展示



昼食交流会



フィナーレは立川高校吹奏楽部と本校合唱部が交互に並び合奏

3. 学校行事から PTA 行事へ

ウインターコンサートは当初、学校行事『親子コンサート』としてスタートしました。平成 21 年より PTA 行事となり、平成 29 年 12 月 17 日で PTA 行事として 8 回目の開催となります。開催にあたっては、PTA 実行委員会の行事部が中心となり準備、運営をしています。運営マニュアルも徐々に改良され、PTA スタッフも自分達のイベントとしての意識が定着してきました。

一方で、コンサート開催場所が本校体育館であるため、立川高校吹奏楽部との打ち合わせ、楽器等搬入経路の確認、マイク及び音響機械などの機材調整など、本校の先生方のご協力が不可欠です。開催日程は立川高校との日程調整により例年 12 月の土日となっており、先生方のご負担も大変なものだと感じています。今年は創立 50 周年の年にあたり、開催負担の軽減にもつながると考え、学外の会場で開催することを希望しました。しかし、使用会場の抽選にはずれ、例年通り体育館の開催となりました。

ウインターコンサートを PTA 主催行事として開催するためには、様々な課題がありますが、工夫しながらウインターコンサートを継続してゆきたいと考えています。

これらの課題に対応するために、府中七中及び立川高校の皆さんからご意見を頂きたいと考えました。ウインターコンサート開催の意義と必要性を確認するために、アンケート調査を企画しました。

ウインターコンサートの課題

開催日程が 12 月の週末土日であり、年末の慌ただしい時期の開催である。

開催の準備運営の打ち合わせや手配等の負担が重い。

武蔵台学園児童生徒の理解啓発につながっているのか、わからない。



課題への対応

交流校にアンケートを取り、現状を理解する。

アンケートから、開催の意義と必要性をあらためて確認する。


4. 府中七中ダンス部、立川高校吹奏楽部へのアンケート

アンケートについては、地域部の講演会で講師をして頂いた明星大学教育学部教授 平井威先生にご意見を頂きました。平井先生は、元立川養護学校の先生であり「親子コンサート」の事もご存知です。授業では、特別支援教育概論を担当されており、学生さんたちに障害者との接点についての意識調査を行っていらっしゃいます。

【平井先生のご意見】

・現在の高校生は、彼らが小学校入学時に特別支援教育が始まっているため、子どもの頃に障害者との接点がある。交流については、選択式の質問ではなく、率直な意見をきいてもよいのではないかな。立川高校の生徒さんは自分の考えをしっかりと持っている。

・障害者と初めて会った時については、大学生の回答から、3 割程が幼少期や小学校で経験がある。子どもの時はさほど意識せずにつき合ったこともあるだろう。

<p>平成 29 年 12 月 17 日</p> <p>郡立立川高校吹奏楽部の皆様</p> <p>本日は素敵な演奏を子供たちにプレゼントして頂き、本当にありがとうございました。武蔵台学園は今年創立 50 周年を迎えました。立川高校吹奏楽部の皆様との交流も 38 回目となりました。ウインターコンサートを次の世代に繋いでいくために、私たちに何ができるのか考えてゆきたいと思っております。つきましては、下記のアンケートにお答え頂ければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。</p> <p>Q1 あなたの身近に障害のある人がいますか、または、これまでにいたことがありますか。(複数回答可)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 自分自身または家族等身近な家族2. 学校(幼稚園・保育園、小学校、中学校)3. 最近所4. 趣味等の活動の場5. 身近にいたことはない6. その他() <p>Q2 あなたは、障害のある人と気軽に話したり、障害のある人の手助けをしたことがありますか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ある2. ない <p>Q3 Q2 で「ある」と答えた方に伺います。それはどのような気持ちからでしょうか。(複数回答可)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 身近などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから2. 近所付き合いや親せき付き合いなどで3. 困っているときはお互い様という気持ちから4. 授業、自分も障害をもつ可能性があるから5. なんとなか6. その他()7. わからない <p>Q4 Q2 で「ある」と答えた方に伺います。それはどのような手助けをしたら、(複数回答可)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 外出中に手助けした2. 一緒に遊んだ3. 動物を触れた4. 話し相手5. その他() <p>Q5 あなたは「共生社会」という考え方を知っていますか。</p> <p>共生社会:障害があっても、なくても誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らす社会を目指す考え方</p> <ol style="list-style-type: none">1. 知っている2. 言葉だけは聞いたことがある3. 知らない <p>Q6 あなたは、「共生社会」考え方に基づいて、「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前」という考え方について、どう思いますか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. そう思う2. どちらかといえばそう思う3. どちらかといえばそう思わない4. そう思わない5. わからない <p>真摯にお願いします。ー</p> <p>1</p>	<p>Q7 障害のある人に対する理解と交流を深めるために、さまざまな行事や催しが行われています。あなたはこのような行事や催しに参加したことがありますか。(ウインターコンサートを除く)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 参加したことがある2. 参加したことがない <p>Q8 Q7 で「参加したことがある」と答えた方に伺います。それはどのような行事・催しでしたか。(複数回答可)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 障害のある人のことをテーマとしたセミナーなど2. 障害のある人による演劇・コンサートなど3. 障害のある人と主に行うスポーツなど4. 障害のある人が作成した絵画等展示会など5. 福祉バザー(市の福祉フェア、作業所バザーなど)6. その他() <p>Q9 ヘルプマークを知っていますか。</p> <p> ヘルプマーク</p> <p>ヘルプマーク:盲証や人工関節を使用している方、内臓障害や難病の方など、外見からわかりにくくても移動や配慮を必要としている方が異国の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、東京都福祉局が発行したマークです。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 知っている2. マークだけ見たことがある3. 知らない <p>Q10 武蔵台学園との交流について、自由なご意見をお願いします。どんなことでもかまいません。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> <p>お答え頂き、ありがとうございました。</p> <p>武蔵台学園 PEA</p> <p>2</p>
--	---

上記のご意見をもとに、府中第七中学校及び立川高校の皆さんへのアンケートを作成しました。

交流については自由意見にしました。「満足」、「不満」が〇〇%ということを知るだけでは不十分であり、「どこが良いのか?」あるいは「どこが不満なのか?」といった率直できめ細かい意識が収集できてこそ、具体的な対応策につながるからです。

<アンケートの概要>

(1) アンケートの目的

今年度本校は創立 50 周年を迎えました。約 40 年続けてきたウインターコンサートについて、府中第七中学校及び立川高校の皆さんから本校との交流に関する率直な意見(自由意見)を伺いまとめます。また、障害者との接点、共生社会理念への意識及びヘルプマークの認知についても伺います。

(2) 実施方法

調査期間:平成 29 年 12 月 17 日~24 日(ウインターコンサート終了後 1 週間)

調査対象:府中第七中学校ダンス部1、2年生、立川高校吹奏楽部1、2年生、顧問の先生 無記名

(3) 回収状況

府中第七中学校(以下、七中):9 部

立川高校吹奏楽部(以下、立吹):51 部

(4) アンケート結果の概要

1) 障害者との接点について

両校ともに約 5 割の方が、学校で接点がありました。身近な家族に障害者がいる方も両校で 7 名いらっしゃいました。隣近所での接点も学校に次いで多くみられました。また、障害者との会話や手助けは、約 7 割(七中 67% 6 名、立吹 70% 35 名)が経験しています。この方々に「どのような気持ち」からかきいたところ、「なんとなく」「困っているときはお互い様という気持ちから」という回答が多くみられました。この他に「障害の有無は関係ない」「あたりまえだから」「友達として」といった意見もありました。また、内容については、「一緒に遊んだ」が一番多く、次に「話し相手」でした。

2) 「共生社会」について

「共生社会」の理念については、七中と立吹で異なる結果となりました。七中では「知っている」と答えた方が 22%(2 名)に対して、立吹では「知っている」方が 43%(22 名)、「言葉だけは聞いたことがある」方が 41%(21 名)でした。「共生社会」の考え方に基づいた「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だ」という考え方については、「そう思う」が七中 67%(6 名)、立吹 80%(41 名)となり、「どちらかといえばそう思う」を合わせると、七中 89%(8 名)、立吹 92%(47 名)となりました。

3) 障害者との交流について

障害者との交流行事については、「参加したことがある」が七中では 67%(6 名)に対して立吹では 16%(8 名)という回答でした。

4) ヘルプマークについて

ヘルプマークについては、七中では「知っている」67%(6 名)「マークだけ見たことがある」33%(3 名)でした。立吹では「知っている」31%(14 名)「マークだけ見たことがある」54%(25 名)「知らない」15%(7 名)となりました。

5) 本校との交流について(自由意見)

「楽しかった」「来年もおどりたい、演奏したい」というご意見が沢山ありました。七中は今年初めてのウインターコンサート参加となりました。また、昼食交流に関するご意見も立吹から頂きました。

(5) アンケート結果

今年度は、PTA 行事となって 8 回目のウインターコンサートでした。コンサートの開催にあたっては、PTA 行事部が準備運営を担当しています。機材調整や事前打ち合わせなども必要となりますが、PTA は毎年実行委員が入れ替わるため、ウインターコンサートの準備運営も新メンバーにとっては初めてのなれない活動となります。また、開催日は例年休日となることから学校や先生方のご負担も大きな行事です。

今回のアンケートでは、交流校である府中七中ダンス部と立川高校吹奏楽部の生徒さんたちが、本校との交流をどのように感じているのか、率直な意見を知り、次の世代につなげてゆくための参考となるようにと考え、質問項目を用意しました。

アンケートの対象は七中 9 名、立吹 51 名 (計 60 名) のため、単純な比較は難しいと考えます。しかしながら対象者の皆さんは、小学校入学時には特別支援教育が実施されている世代であることを考えれば、障害者に対する認識はとても興味深く感じます。自由意見については、本当に沢山の回答を頂きました。読みながら、何度も胸にこみ上げるものがありました。全ての意見を網羅することはできませんが、コンサートと交流(昼食交流、交流全体)について紹介します。

1) 選択肢回答の設問(Q1-9)のまとめ

障害者との接点についての設問では、全体の 5 割が学校で経験がありました。関わりに関する設問では、「なんとなく」「困っている時はお互い様」という意見の他にも、「友達として」、「障害の有無は関係ない」「人としてあたりまえ」という意見もありました。「障害者」である前に「一人の人間」として、子どもたちと同じ目線を持つ生徒さんが存在することに驚き、感謝しました。そのような意見こそ、私たちが望む共生社会だと思うからです。私たちは人と接するとき知識や観念で捉えてしまうものです。Aさんという個人として接すれば、相手が「障害者かどうか」はあまり関係のないことかもしれません。一緒に過ごすことで、「障害者の A さん」ではなく「友人の A さん」である、そういう体験をしている生徒さんがいることに気づきました。

両校とも直接交流の機会が少ないようですが、共生社会の考え方については 9 割近くの方が理解していました。

2) 自由意見(Q10)のまとめ

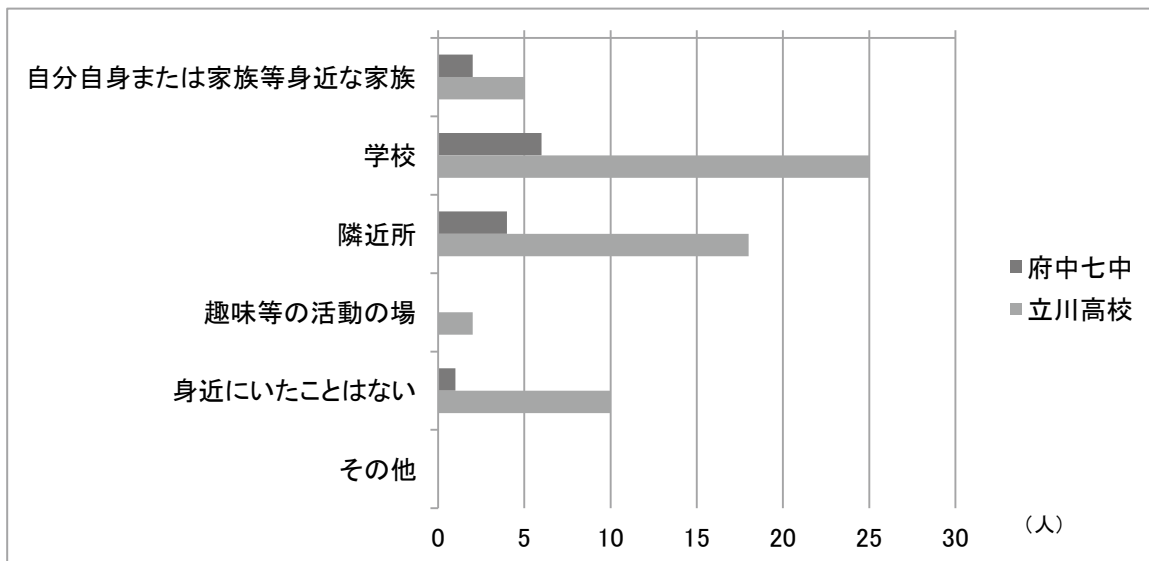
本校の児童生徒は、音楽とダンスが大好きです。子どもたちが素直に喜びを表現する姿は、交流校の皆さんにも訴えるものがありました。子どもたちは盛り上げ上手で、笑顔が溢れる場を武蔵台と交流校の皆さんが共に創り上げてくれたと感じました。「学園にいる生徒たちがとても生き生きしていて障害があるなんて思えないくらいだった。笑顔が沢山でよかった。」(七中)、「演奏者としてとても楽しくできて、かなり久しぶりに心の底から楽しめた気がした。また、身体の全てから喜びや楽しさを表現している子が何人かいて、あれくらい素直に表現できるようなパフォーマーになりたいなと思った。」(立吹)「合唱部の皆さんは音楽、合唱を本気で楽しんでいるというのが伝わってきてとても感動したし、聴いていて楽しかった。たくさんのご協力ありがとうございました。」(立吹)

昼食交流については、コミュニケーションの難しさと交流の成果に対する意見を頂きました。「普通に生活しているだけでは、障がいのある方とは交流できないので、いざ交流するとなったときに、そういう方についての知識や接し方を知らないとコミュニケーションがとりにくくなって…というあまりよくないサイクルになってしまうと感じ、やはり“(どのように接するか、どうということが苦手なのか、なにが得意か)知る”ことが大切なのだと思った。」「交流会食で生徒さんとたくさんお話ができて楽しかったです！もう就職活動をはじめるときいて、とてもおどろいたし、自分の夢を持っていてすごいなあと思いました。実際にお話することで、いろいろなことがわかるし、楽しいし、もし偏見をもっている人がいたらぜひこのような場にきてみるべきだと思います。」「(立吹)

その他交流について様々な感想を頂きました。「歌コラボのとき、みんなノリノリですごく楽しかったです！」「(立吹)「これからこのような交流は積極的に行うべきだと思います。初めての体験でしたが、とても楽しかったです。ありがとうございました。」「(立吹)「ある兄弟からはじまったこのコンサートはとても心温まるお話だなと思いました。私は高2なので、今回でウインターコンサートに出るのは最後でしたが、これからもずっと武蔵台学園と立吹の交流、ウインターコンサートが続いてほしいと本当に本当に思っています。この心温まるお話をずっとずっと語り継いでほしいです。今年も本当に楽しく演奏できました。ありがとうございました。」「(立吹)「今後もこの交流を続け、さらに歴史のあるものにしたいです。」「(立吹)

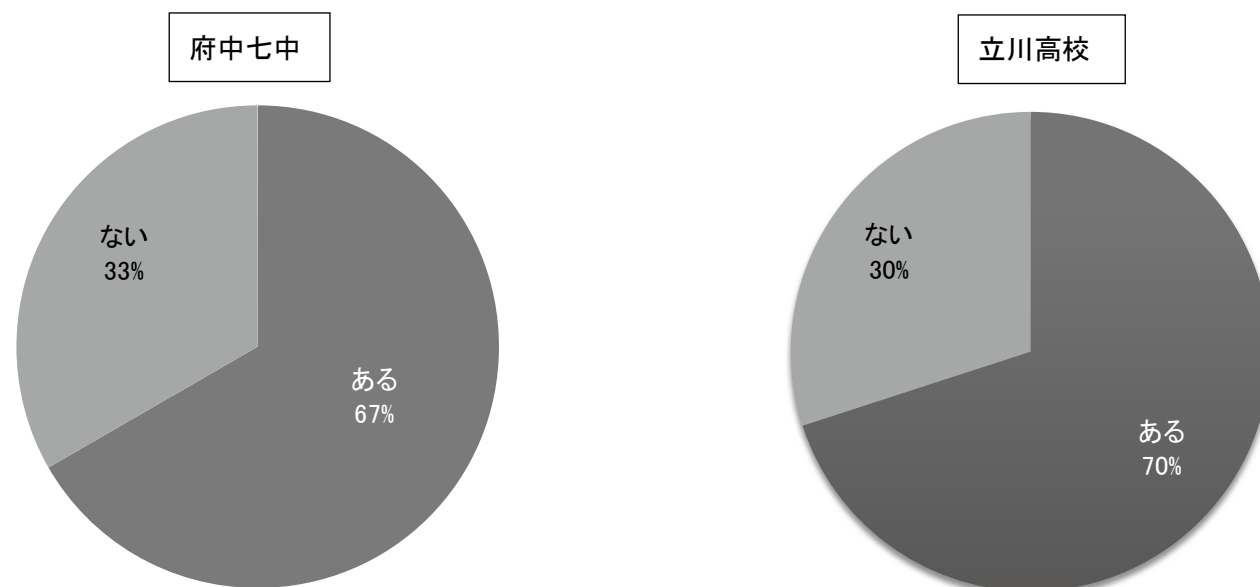
<集計結果>

Q1 あなたの身近に障害のある人がいますか、または、これまでにいたことがありますか。(複数回答可)



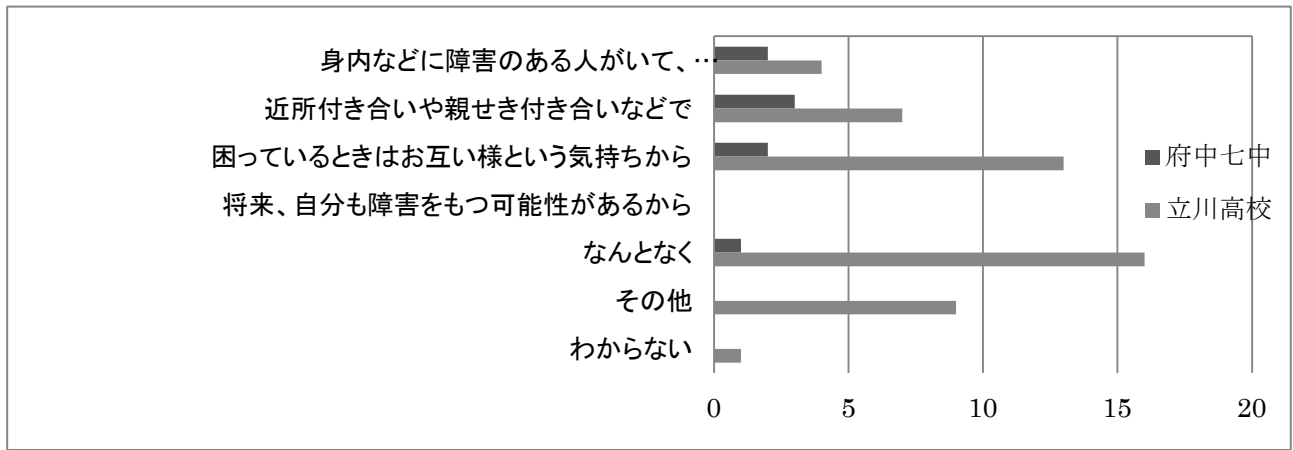
項目	府中七中(人)	立川高校(人)
自分自身または家族等身近な家族	2	5
学校	6	25
隣近所	4	18
趣味等の活動の場	0	2
身近にいたことはない	1	10
その他	0	0

Q2 あなたは、障害のある人と気軽に話したり、障害のある人の手助けをしたことがありますか。



項目	府中七中(人)	立川高校(人)
ある	6	35
ない	3	15

Q3 Q2で「ある」と答えた方に伺います。それはどのような気持ちからでしょうか。(複数回答可)

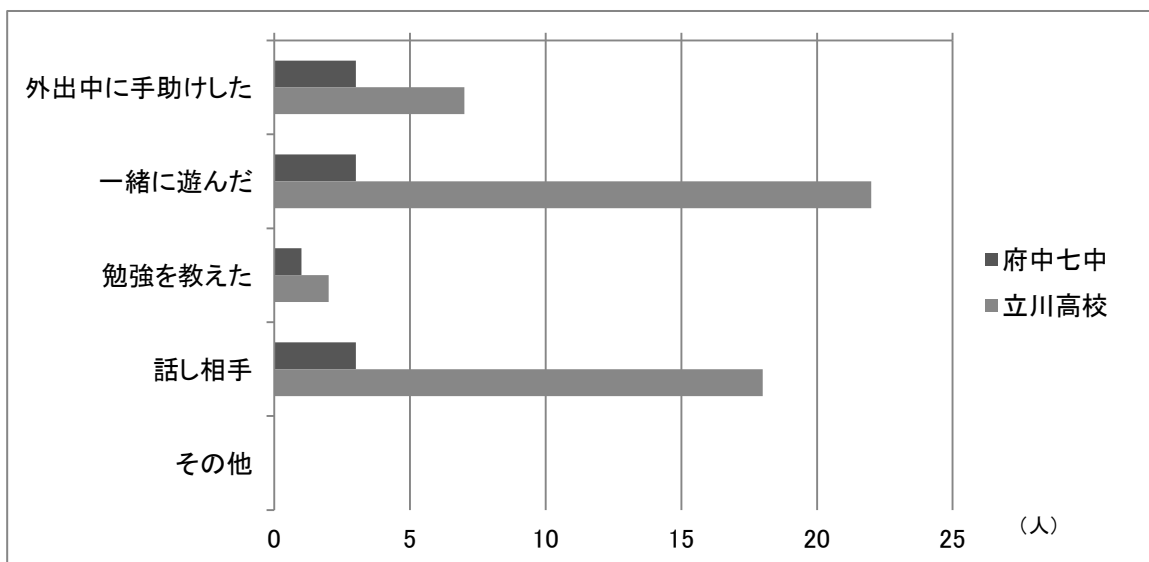


項目	府中七中(人)	立川高校(人)
身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから	2	4
近所付き合いや親せき付き合いなどで	3	7
困っているときはお互い様という気持ちから	2	13
将来、自分も障害をもつ可能性があるから	0	0
なんとなく	1	16
その他	0	9
わからない	0	1

(人)

障害の有無は何ら関係ない、話す機会があった(2)、まだ小さい時で意識してなかった、あたりまえだと思う、部活の後輩だから、交流をするため、友達として(2)

Q4 Q2で「ある」と答えた方に伺います。それはどのような話や手助けでしたか。(複数回答可)

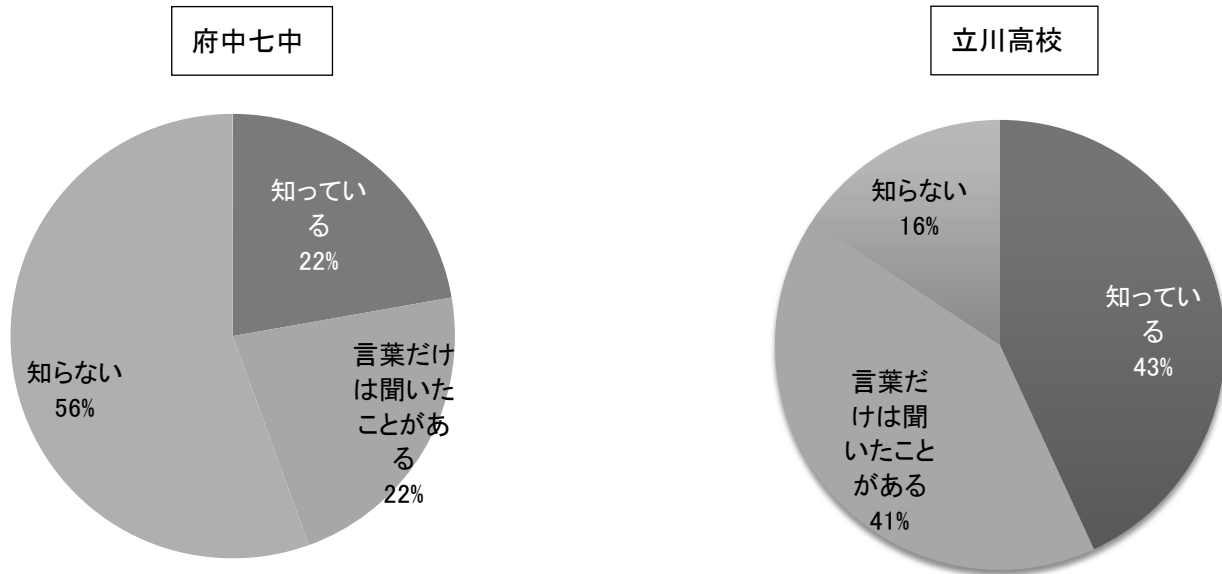


(人)

項目	府中七中(人)	立川高校(人)
外出中に手助けした	3	7
一緒に遊んだ	3	22
勉強を教えた	1	2
話し相手	3	18
その他	0	0

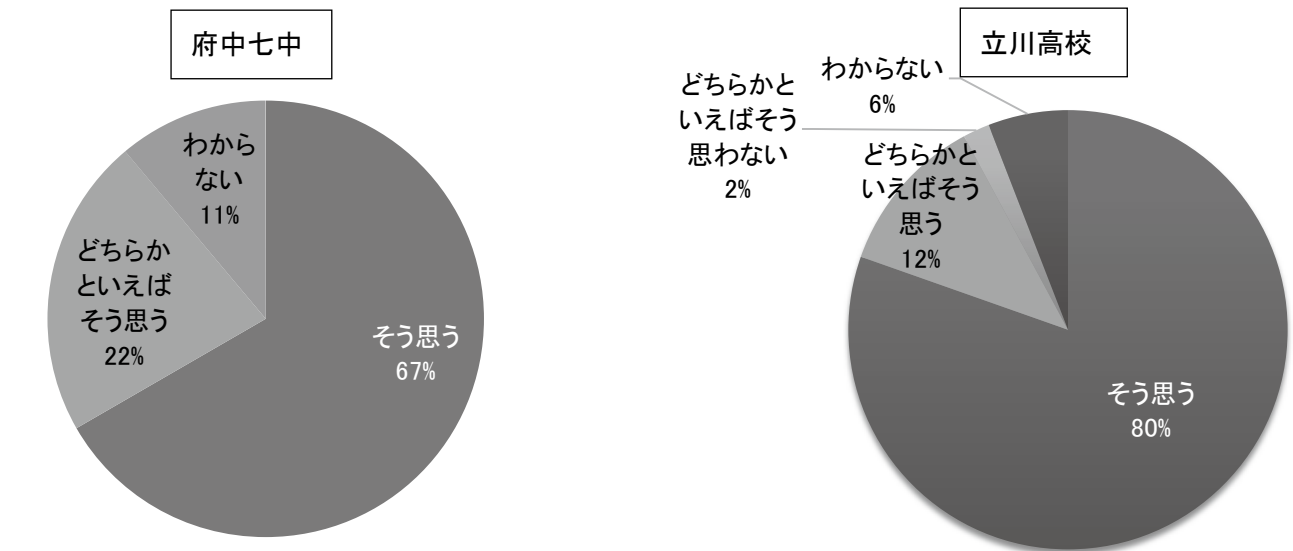
Q5 あなたは「共生社会」という考え方を知っていますか。

共生社会：障害があっても、なくても誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らす社会を目指す考え方



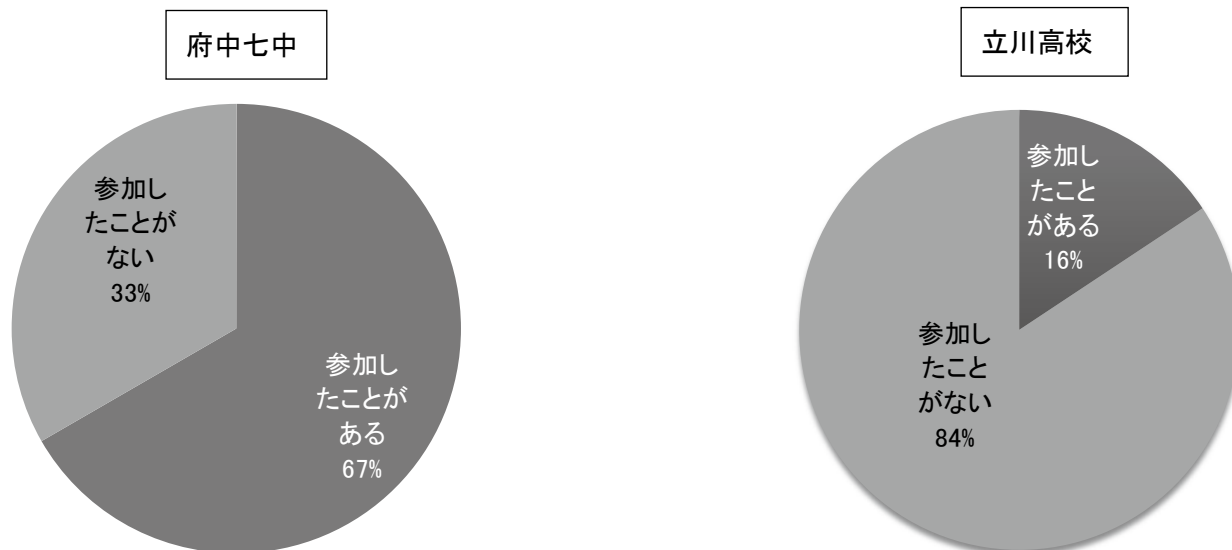
項目	府中七中(人)	立川高校(人)
知っている	2	22
言葉だけは聞いたことがある	2	21
知らない	5	8

Q6 あなたは、「共生社会」という考え方に基づいて、「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だ」という考え方について、どう思いますか



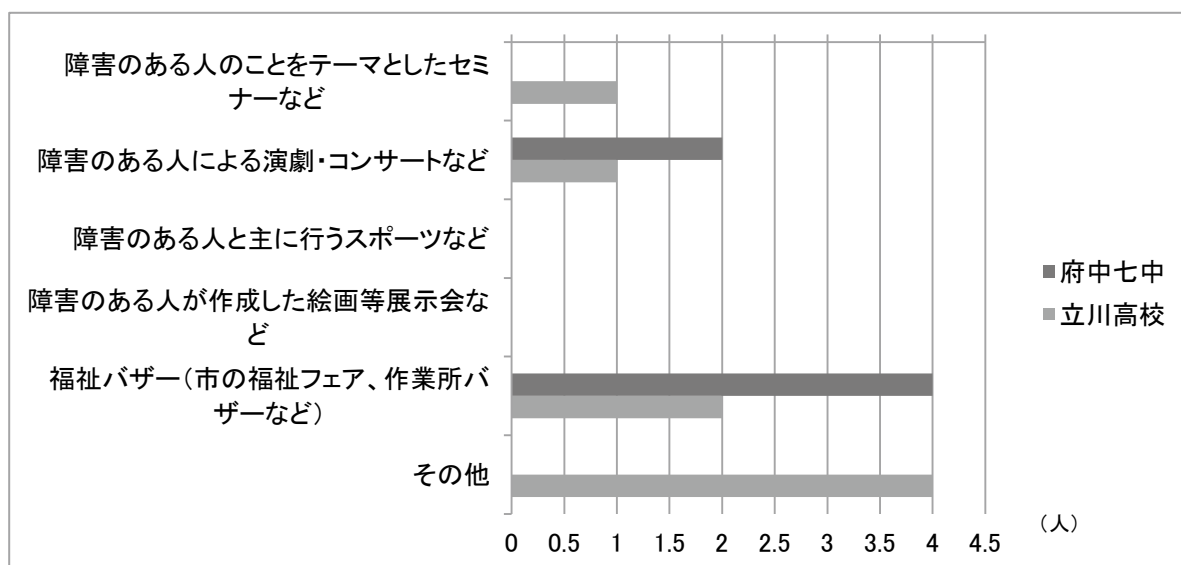
項目	府中七中(人)	立川高校(人)
そう思う	6	41
どちらかといえばそう思う	2	6
どちらかといえばそう思わない	0	1
そう思わない	0	0
わからない	1	3

Q7 障害のある人に対する理解と交流を深めるために、さまざまな行事や催しが行われています。あなたはこのような行事や催しに参加したことがありますか。(ウインターコンサートを除く)



項目	府中七中(人)	立川高校(人)
参加したことがある	6	8
参加したことがない	3	43

Q8 Q7で「参加したことがある」と答えた方に伺います。それはどのような行事・催しでしたか。(複数回答可)



項目	府中七中(人)	立川高校(人)
障害のある人のことをテーマとしたセミナーなど	0	1
障害のある人による演劇・コンサートなど	2	1
障害のある人と主に行うスポーツなど	0	0
障害のある人が作成した絵画等展示会など	0	0
福祉バザー(市の福祉フェア、作業所バザーなど)	4	2
その他	0	4

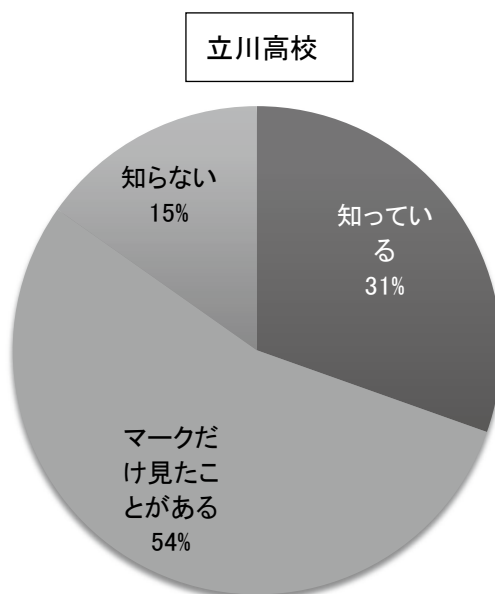
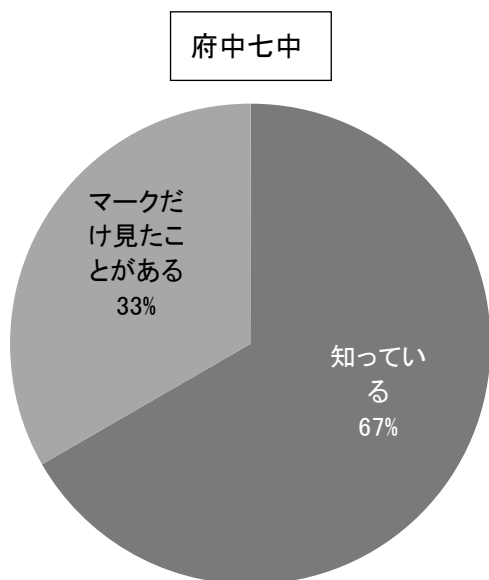
その他: チャリティーコンサート、大学のサークル活動、他校の文化祭演奏、学校行事

Q9 ヘルプマークを知っていますか。



ヘルプマーク

ヘルプマーク: 義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方など、外見からわからなくても援助や配慮を必要としている方々が周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、東京都福祉保健局が作成したマークです。



項目	府中七中(人)	立川高校(人)
知っている	6	14
マークだけ見たことがある	3	25
知らない	0	7

Q10 武蔵台学園との交流について、自由なご意見をお願い致します。どんなことでもかまいません。

<府中七中ダンス部(文中では七中)>(顧問の先生もお答え下さっています)

ウインターコンサート参加について

- ・私は武蔵台小学校出身で、何度か武蔵台学園と交流したことがあったのですが、府中第七中学校ではあまり交流の機会がなくて残念です。私は是非七中と武蔵台学園でも交流ができればな、と思います。
- ・なかなか交流するという機会がなく武蔵台学園生のことを知れるチャンスがなくてあまり知らなかったのですが、今回のコンサートを通じて武蔵台学園生のことをよく知れていい機会だったと思います。
- ・身近なところと言えども、あまり関わる機会がなかったのでコンサートを通し、障害者のことや知らない、新しいことに触れることができ楽しかったです。
- ・みんな温かい人ばかりでノリも良くとても楽しかったです。また、障害のある方と一緒に楽しんだりできたので、いつもの発表のときよりも達成感とかをたくさん感じられました。ありがとうございました。
- ・学園にいる生徒たちがとても生き生きしていて障害があるなんて思えないくらいだった。笑顔が沢山よかった。
- ・設備がととのっているイメージ。障害のある方とそうでない方とのかべをなくすような活動に取り組んでくれていると思う。今回は発表の場を用意してくださり、ありがとうございました。
- ・今回のウインターコンサートは、いつもと違って、障害のある方達にダンスを見てもらったけれど、見てくれた人達、みんなが手拍子や一緒に音楽に乗ってくれたりして、楽しんでもらえたみたいで、良かったです。是非来年もおどりたいと思いました！
- ・先日は発表させていただき本当にありがとうございます。とても楽しくて、武蔵台学園の生徒さんをはじめとするみなさまも楽しんでいただけたら幸いです。これからも、もっともっと生徒さんと交流を深めていきたいです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。本当に素敵なステージを用意していただきありがとうございました。PTAの皆様おつかれさまでした。

<都立立川高校吹奏楽部(文中では立吹)>(顧問の先生もお答え下さっています)

ウインターコンサート「音楽でつながる」ことについて

- ・とても楽しんで聴いてくれている感じが演奏しているこちらにも伝わってきて楽しかったし、うれしかったです。
- ・ウインターコンサート、とても楽しかったです！立吹との交流がこれからも続きますように！
- ・私達の演奏を楽しんで聴いてくれているのが伝わって、とても嬉しかったです。コラボも楽しくできてよかったです。
- ・今回、演奏を通して「音楽で人とつながる」ということをあらためて実感することができました。また、皆さんの演奏も、とてもよかったです。今回このような場を用意していただき、本当にありがとうございました。

- ・とても楽しんで聴いてくれている感じが演奏しているこちらにも伝わってきて楽しかったし、うれしかったです。
- ・ウインターコンサート、とても楽しかったです！立吹との交流がこれからも続きますように！
- ・これからも続いていくといいなと思います。
- ・私達の演奏を楽しんで聴いてくれているのが伝わって、とても嬉しかったです。コラボも楽しくできてよかったです。
- ・今回、演奏を通して「音楽で人とつながる」ということをあらためて実感することができました。また、皆さんの演奏も、とてもよかったです。今回このような場を用意させていただき、本当にありがとうございました。
- ・演奏者としてとても楽しくできて、かなり久しぶりに心の底から楽しめた気がした。また、身体的全てから喜びや楽しさを表現している子が何人かいて、あれくらい素直に表現できるようなパフォーマーになりたいなと思った。
- ・とても楽しかったです！！自分達の演奏を楽しんでくれているのを感じることが出来て嬉しかったです。
- ・私は高校1年生なので、初めてこのウインターコンサートに参加しました。1年生全体の行事だったので、成功するか不安でしたが、合唱コラボで楽しそうにみんなが歌っていたので、本当によかったです！音楽を楽しむことを忘れず、このウインターコンサートを次のステップにつなげ、これからも技術を磨きたいと思います。また1年後、素敵な音楽を演奏できたらうれしいです。
- ・ウインターコンサートのような障害のある人と関わることができる機会がもっと増え、これからもつづけていけたらいいなとおもいました。
- ・ある兄弟からはじまったこのコンサートはとても心温まるお話だなと思いました。私は高2なので、今回でウインターコンサートに出るのは最後でしたが、これからもずっと武蔵台学園と立吹の交流、ウインターコンサートが続いてほしいと本当に本当に思っています。この心温まるお話をずっとずっと語り継いでほしいです。今年も本当に楽しく演奏できました。ありがとうございました。
- ・私たちの音楽をととても楽しんでくださって嬉しかったです。素敵な時間をありがとうございました。
- ・本当に楽しかったです！！音楽でここまで楽しくなれるんだと学ばせてもらいました！
- ・昨年と同様、演奏中に生徒さんたちに楽しんでいただけた気がして嬉しかったです。
- ・今回は楽しんで演奏することができ、よかったです。また来年も楽しみにしています。
- ・ウインターコンサートでの演奏を聴いて頂いたとき、皆様がすごく楽しそうに私たちの演奏を聴いて下さってるな、というのがとても伝わってきて、私も楽しく演奏することができました。昼食や合唱で交流できて、とてもよい経験になったと思いました。ぜひ来年も演奏させて下さい！！
- ・ウインターコンサートにお招きいただけたことにより、立吹もより演奏にみがきがかかってきたと思います。来年のウインターコンサートではよりグレードアップした立吹の演奏を聴いていただけたらなと思います。最後になりましたが、ウインターコンサートにお招きいただきありがとうございました。
- ・たのしかったです。来年もお願いします。

- ・普段なかなかこのような行事に参加することがないので、昨年、今年と参加させていただいてうれしかったです。学園の生徒さんがみんなにこにこ笑っていて素敵でした。ありがとうございました。
- ・とても楽しくて、時間が経つのがあっという間だった。
- ・今回、演奏を通して「音楽で人とつながる」ということをあらためて実感することができました。また、皆さんの演奏もとてもよかったです。今回このような場を用意させていただき、本当にありがとうございました。
- ・ウインターコンサートにお招き頂くことは立川高校の生徒にとってもとても良い経験になるので、これからも続けて欲しいです。
- ・とても楽しくて、時間が経つのがあっという間だった。
- ・私の母は都内の小学校で特別支援学級の補助教員をしています。なので、母との会話でよく障害のある子どもたちについて話してくれます。支援学級の子もたちが頑張っている姿や毎日素直に楽しく過ごしている話を母が楽しそうに語ってくれます。私も皆さんの力になればうれしいです。
- ・私の「はとこ」に未熟児で生まれ、弱視の男の子がいるので、障害のあるなしに関わらず共に音を楽しむこのコンサートで考えさせられる面が多くありました。今回は本当によい経験をさせていただきました。来年度もよろしく願います。コーヒークッキーとてもおいしかったです！

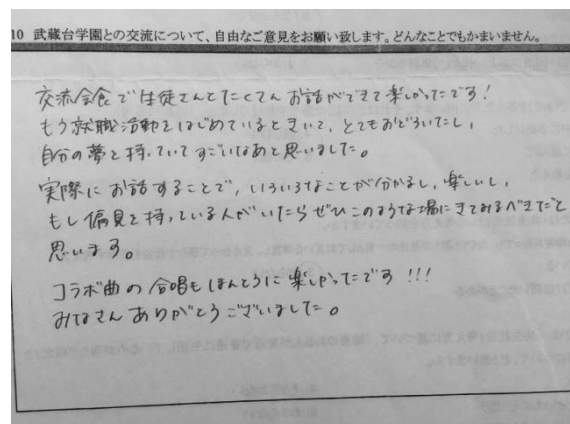
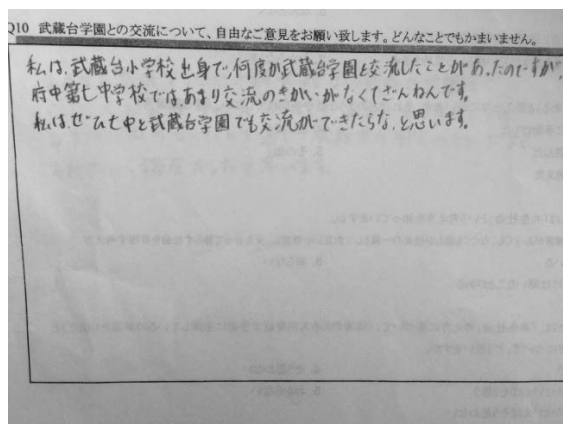
交流について(昼食交流、歌コラボなど)

- ・お昼ごはんのとき、立吹の人数が多いので、どうしても会話の内容が身内ネタになってしまっていた。会話がすぐにとぎれてしまって、どうしても「好きなものを言っていく」とかで時間をつぶしてしまった感じがした。歌コラボのとき、みんなノリノリですごく楽しかったです！
- ・普通に生活しているだけでは、障がいのある方とは交流できないので、いざ交流するとなったときに、そういう方についての知識や接し方を知らないとコミュニケーションがとりにくくなって・・・というあまりよくないサイクルになってしまうことを感じ、やはり“(どのように接するか、どういうことが苦手なのか、なにが得意か)知る”ことが大切なのだなと思った。
- ・交流会食で生徒さんとたくさんお話ができて楽しかったです！もう就職活動をはじめているときいて、とてもおどろいたし、自分の夢を持っていてすごいなあと思いました。実際にお話することで、いろいろなことがわかるし、楽しいし、もし偏見をもっている人がいたらぜひこのような場にきてみるべきだと思います。コラボ曲の合唱もほんとうに楽しかったです！！みなさんありがとうございました。
- ・今後もこの交流を続け、さらに歴史のあるものになりたいです。
- ・一緒に歌うのは楽しかったし、一緒にお昼を食べたのも楽しかったです。高等部の合唱部の人たちも、騒いだりすることが全くなって安心しました。
- ・交流会食のときに沢山話せて楽しかったです。
- ・これからこのような交流は積極的に行うべきだと思います。初めての体験でしたが、とても楽しかったです。ありがとうございました。

- ・一緒に歌えて楽しかったです！！
- ・どういう障害をもっているのか、気になりました。
- ・普段ではなかなかこのような交流の機会はないのでとても良いと思います。今回のウインターコンサートがとても楽しかったのでこれからも武蔵台学園さんと交流できたらな、と思いました。
- ・演奏を通して交流ができるというのはとても良い事だと思っています。また、昼食時の交流会食と一緒に話をすることができて、良い機会だと思いました。ありがとうございました。
- ・幼い頃から障がいを持つ友達や先輩とコミュニケーションをとっていましたが、合唱練習や昼の交流会で積極的にコミュニケーションがとれなかったことを悔やんでいます。しかし、演奏を楽しそうに聴いていただけたようで、演奏をする・聴くというコミュニケーションができていたのではないのでしょうか。(演奏を通したコミュニケーションということで)
- ・普段障害のある方と交流する機会がなかなかないので、そのような方と交流し、一つの舞台を作ることができるウインターコンサートはとても良い経験になりました。
- ・障害のある方と関わる機会は身近にないので、ウインターコンサートをきっかけに関わることが出来てとても楽しかったです！ありがとうございました！！
- ・障害を持っている子どもたちが、自分たちの力を出し切ろうとがんばっている姿にとっても元気ももらいました。合唱部のみなさんは歌が上手で日々がんばって練習していること、お客さんに向けて日々の成果を発信しようとしていることがすごく伝わってきました。私自身の生活にはない悩みとか、たくさんあるんだらうなと思って、私も目の前のことを全力でやらなきゃいけないと感じました。とにかく、感動しました。ありがとうございました！
- ・合唱部の皆さんは音楽、合唱を本気で楽しんでいるというのが伝わってきてとても感動したし、聴いていて楽しかった。たくさんのご協力ありがとうございました。

運営について

- ・行事後に交流できたらもっと良いと思った。
- ・交流会食の時間がもう少し長い方がいいかなと思いました。



おわりに

1. 1年間の理解啓発活動の成果

(1) あいさつまわりについて

交通機関、交番、店舗など、普段お世話になっている顔の見える訪問先には、視覚的にもわかりやすく、より具体的な情報を提供しようと考え、リーフレットの改正を行いました。日頃からお世話になっている訪問先には、どんなことが苦手で困っているのか、どんな支援が必要なのか、情報とコミュニケーションを支援し、障害に対する理解促進のツールとして活用してまいります。

新しいリーフレットにおいては、あいさつまわりの要望書アンケートを元に、PTA 執行部で構成を考え、知的障害者や発達障害者が苦手な事をイラストと文章で説明を加えました。「具体的な子どもたちの行動」と「日々練習をしていること、頑張っていること」を伝えることを主眼としました。出来あがったリーフレットは、ウインターコンサート来場者、創立 50 周年記念式典来賓の皆様にも配布することができました。

(2) 夏まつりについて

恒例の夏まつりも今年度開催しました。

似顔絵コーナーを担当した多摩美術大学の学生さんより、「『人に喜んでもらえる幸せ』をかみしめました。」「笑顔を見せてくれて、楽しかった」といった感想を頂きました。子どもたちの笑顔は人の心に届きます。

(3) 講演会について

明星大学教育学部 教授 平井威先生にお話頂きました。

オープンカレッジ東京の事例を通して、「共に学ぶ」ことの意義を学びました。障害者の交流については、健常者の集団に障害者が参加するよりも、障害者の集団に健常者が参加する方が、「お客様」として迎えられる障害者の心理的負担が少ない、とのこと。参加した一般学生が成人障害者と共に学び、どのように気持ちを変化させたのか、感想などを伺いました。子どもたちの理解促進につながる視点です。

(4) ウインターコンサート

あいさつまわり用リーフレットをウインターコンサート来場者に配布しました。また、立吹と本校合唱部の昼食交流会において、創立 50 周年記念式典用記念品である花器、木工製品を展示し、製品の説明を行いました。

今年のウインターコンサートには、七中及び立吹の保護者や家族の方が初めて来場し、両校の保護者の方にもリーフレットをお渡しすることができました。ウインターコンサートの来場者は、これまで本校の児童生徒、卒業生、家族が中心でした。交流の輪が七中に広がったことで、交流

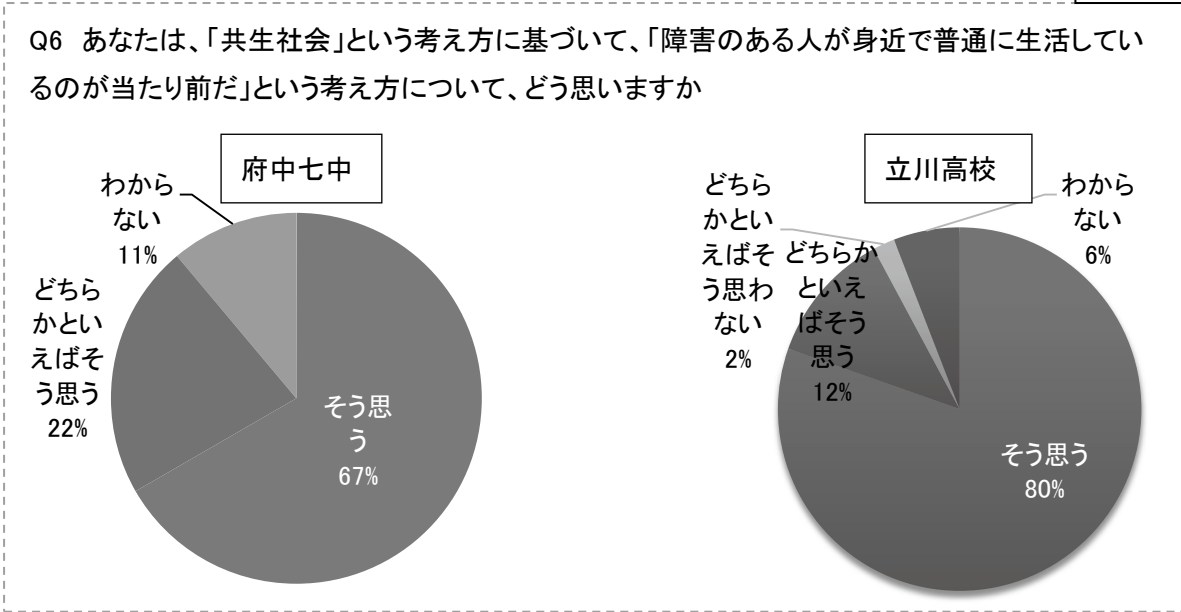
校の家族の方にもご来場頂きました。昼食交流の場では、創立 50 周年記念式典用記念品を展示しました。

(5) アンケート調査の実施

ウインターコンサートは武蔵台学園児童生徒の理解啓発につながっているのか、現状を把握するために、アンケート調査を実施しました。

「共生社会」という考え方については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた方が、約 9 割となりました。この理念が社会で受け入れられてゆくことを願います。

再掲



今回初めて、皆さんから自由意見を頂きました。私たちはよい感想が頂けないのではかと思っていました。厳しい社会の現実があるだろうと感じていました。しかしながら、ウインターコンサートにおける交流は、七中、立吹の生徒さんたちが楽しい、と感じていることがわかりました。両校の皆さんは、豊かで自由な感性で交流を楽しんで下さっているのではないかと思います。子どもたちが音楽を心から楽しんでいる姿は、両校生徒の皆さんにもしっかりと伝わっています。頂いた感想から、私たち PTA もあらためてこのコンサートの意義を理解することができました。「交流＝楽しい」と思って頂いたことは、PTA にとって心強い励みです。また、「ウインターコンサートの物語を語り継ぐ」、「歴史のある行事にしてゆきたい」といった意見は、PTA の在り方にもつながる貴重な意見です。このような機会に恵まれたことに、心から感謝します。

ウインターコンサートにおける「音楽でつながる」体験は、交流校の生徒さんたちにとって、(障害の)知識や主観が体験によって実感され、それぞれの生き方につながる場であると考えます。この交流を次のステップにつなげるために、両校の生徒の皆さんから頂いた言葉を伝え、PTA 及び学校全体で共有してゆきます。障害があってもなくても、同じ目線で「音楽でつながる」、一つの場を「ともに創り上げる」ウインターコンサートは、社会共生の心を育てる場として継続して参ります。

2. 今後の PTA 活動について

(1) 武蔵台学園の子どもたちについて、少しでも多くの地域の方々にご理解頂くことが「共生社会」を具体的に作りあげる第一歩であると考えています。したがって、リーフレットの配布については、あいさつまわりの訪問先以外への配布を検討してまいります。身近な店舗やよく行く外出先などで配布を行い、子どもたちの理解啓発につなげ、将来に広がる関係づくりを目指してまいります。

(2) ウインターコンサートの物語は、立吹の協力を得ながら PTA が語り続けていかなければなりません。今後も PTA 主催行事として、ウインターコンサートの物語を語り続けてゆく仕組みを作る必要があります。そのためには、PTA だけではなく、先生方、学校との継続的な共同作業をお願いしたいと思います。今回の調査研究助成事業において、ウインターコンサートの意義を再認識し、継続するために PTA と学校が協力してゆくことが確認できました。コンサート運営の合理化を図るとともに、マニュアルを作成するなどして負担軽減と安定的な継続をめざした工夫をしております。また、協力校の拡大も検討したいと思います。これも「共生社会」という考え方の具体的な普及につながると考えるからです。

(3) PTA はそれぞれの活動の理念と意義を組織として共有し、開催にかかる支援を卒業生などに広くお願いすることで、会員間の仕事の負担感を減らし、PTA 活動と日常の家庭生活とが無理なく両立できるよう努めてまいります。